

主任コラム4月号

主任 澤井 良子

ご入園・ご進級おめでとうございます。3月21日の卒園式では32名の年長児が、ながさわ保育園から巣立っていき、本日18名のお友達が入園してきてくれました。入園してすぐは、お子さんも家庭から子ども集団の中に入り、初めての体験に戸惑いや不安もあると思います。たくさんの思いに寄り添い、関わりながら保護者の方に安心して預けて頂けるように、職員一同、ながさわ保育園の子ども達1人1人を大切に保育にあたっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3月24日より、新クラス・新担任になりスタートしました。前担任に不安を受け止めてもらっている子や、1つ上の学年になったことで「お兄ちゃん、おねえちゃんになった」と張り切っている子もいます。中でも年長児の成長が大きく、お当番活動など積極的に取り組んでくれています。給食後の机拭きや、床拭きなどは実際にやってみると「らいおん組さんて、お当番とか大変やったんやな」と感じたようで口にしていました。ずっとみていたことを実際にやってみることで、その人の思いに気付く体験は大事なことだと感じました。特にうさぎ組から進級してきた子ども達には、ゾーンの遊び方、給食などの場面で、優しく声を掛けルールを教え思いに寄り添う姿をみかけます。自分達が異年齢児保育の中でしてもらった経験が伝承されていく・・・それこそが子ども主体の保育だと思います。

ながさわ保育園では、見守る保育を取り入れています。【見守る】とは、ただ子どもを見ているだけではありません。保育所保育指針の中に『保育を必要とする子どもの保育を行い、その**健全な心身の発達を図る**ことを目的とする児童施設であり、入所する**子ども達の最善の利益を考慮する**～』とあります。最善の利益とは、これからの時代を生き抜く子ども達に必要な力として、①自ら考え、行動する力②共感する力、コミュニケーション力、他者と協働する力、自己調整力③創造性、発達力で、それは子どもが本来持っている力であり、私達保育士は発達を保証するという意味でも、その力を引き出す責任があります。そしてその力を出せる環境を用意し、子ども達が自らやろうとする気持ちになること、子ども達が主体的になるようにするために、自分で決める（選択＝考えるきっかけをつくる）事が大切となり、周りにいる大人が、個々の発達に理解を示し、子どもたちの思いや願いを応答的に受け止めていくことが必要となってきます。

幼児期の教育には、日々の保育の中で「～を味わう」「～を感じる」「～を楽しむ」といったことが記載されており、大人が教え込むのではなく子どもが体現する環境（人・物・空間）を作っていくことが大切となっています。私達保育士は保育の知識を高めながら、子ども達の成長に必要なこと、必要な体験、必要な力を身につけていけるよう保育し、保護者の方と一緒にお子様の成長を伝え合い、一緒に見守っていけたらと思っています。一年間、よろしくお願い致します。

新クラスの様子

